

市民力かわら版

第30号
平成24年7月15日
編集/市民力かわら版編集委員会
発行/矢板市総合政策課
電話: 0287-43-1112
ファクス: 0287-43-2292
Eメール:
yaita@city.yaita.tochigi.jp



子育て環境日本一を目指す

4月の市長選挙で当選を果たした遠藤市政の三期目が始まった。

「選挙戦を通して、多くの市民と対話し、その思い、願いを受け止める機会を持つことができました。みんなが安心して心豊かに暮らせるまちづくりを望んでいることを再確認し、それを実現しなければならぬ」という思いを強くしました」と話す市長。

その市長の思いをひとこととして表し、マニフェストとして掲げたのが「子育て環境日本一を目指す」という壮大なテーマだ。

「広報やいた」の市長のコラム「比翼の末（第六十回）」で、そのことに触れているが、あらためて市民の目線ですらに掘り下げてみるべく、かわら版記者による市長へのインタビューを行った。

なぜ、子育て環境日本一を目指すのでしょうか？

地方分権が叫ばれ、予算も増える見込みがない中で、都市間競争が強まっています。

矢板の特性を生かした魅力あるまちづくり、矢板に住んで本当に良かったと思えるまちづくり、つまり、市民満足度の高い自治体づくりのためには、自治体の政策形成力が問われています。

人口減少時代に突入り、これからの矢板市に投げかけられた課題を克服していくためには、若者世代、子育て世代の人口の増加を誘導しなければ成り立ちません。その手段・方法として「子育て環境日本一を目指す」ということは、活性化のための抜本的な施策だと考えています。

過疎化、限界集落、廃村、コミュニティの崩壊、孤立社会など、少子化は重要な問題を引き起こします。そして、この人口減少に歯止めをかけなければ、高齢者福祉政策も限界を迎えることになりま



かわら版記者と市長のインタビューの様子

市では、人口の流失をおさえ、流入を促進するために、住宅取得の補助金事業などを行っています。ただ、それだけ

では対症療法にすぎません。矢板市の本質的な子育て環境の価値を高めていくことが重要です。ですから、子育て環境日本一を目指すという事は、ただ単に子育て支援のための施策ではないという事を理解していただきたいのです。

子育て環境にもいろいろありますが？

子育てをめぐる環境には、さまざまなものがあります。保健・福祉、医療、教育だけでなく、生活上の利便性や、働く場所の確保など、まちづくりを考え



る上で重要なものがほとんど含まれています。ただ単に子育て支援のための直接的な支援事業だけでなく、さまざまなニーズを満たす

ために総合的な政策が求められるのです。ですから、各課の職員には子育て支援環境という視点で自分たちの取り組みに力を注ぐよう指示をしたところ

具体的な取り組みは？

すでに「子ども課」を中心に十七億の予算を取ってさまざまな事業を行うことになっています。公約でうた

たように、放射能汚染・被爆の対処は言うに及ばず、保育所(園)・幼稚園の第3子以降の保育料の無料化や、十八歳までの医療費、市立小中学校給食費の助成は、四

年間で全額助成まで持っていきたいです。また、小中学校の土曜教室で子どもたちに教育の機会を提示し、ゆくゆくは土曜の授業を実施し、子どもの学力向上を目指したいと考えています。